

る影響者と強果の約束するは必至の勢ありと断す。
るを妨げず。

要之に優劣航が日本海運の中心を形成するやうにして
国際競争に優劣ありするにこの絶対条件たることは
海運業者と共に我輩は絶対せんとするところ、而かも
艘花の如きこと々の老朽航を擁護しある日本海運は
斯うことと優劣航をたてこころ消極的な方針に庶幾か
らんとする必然なりおとする船舶の競争競争と持續
のため却る在来に比し更らんとし嚴密にこの適切な
定期検査を勵りたゞきか非ん日本海運のため
必要なる要件たるのみならず、實に航業の生命に
關する、人道的な意義ある措置たることを認めて疑はま
りぬる航業の諸君、事實は不幸にして出来ぬ其の

所期を遂げ印し、就中理をりぬる海運不況は代りたて
難破航の増大する物切なり、からさるる、實に航業
の生命に日本海運業者の船舶の検査とそれらに際して
する修繕にありて負担し、此時之とらゝ、あるがた
見せよ、如ふるに陳米の採算のありは如ふる之を
考慮せよ至らざるなきかを度り、之を待望せよと云
ふこと。惟ふる海運を行はざるは船航は右者
は何かも船舶の市價以上を俵倉を契とするを普通
とせし海運業者も却て不利を得を使侍する
もの多し也斯は以て海運業者の船舶の對する修繕
加エりおをぬる取扱ひつゝ、あるかの半年間の消息を窺
知するに足るべしとす。

故上の島國日本に生れ、之國の不幸なる海運に眼を有